

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
相談援助の理論と方法 I		必修 (社) 選択 (精.心)	2	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
渡邊 隆文	B307	t.watanabe	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	<p>&lt;目的&gt; 社会において様々な生活上の課題を抱え、社会福祉サービスを必要としている人々のニーズに対応するには、ソーシャルワークの基礎となる理論と方法論を学ぶ必要がある。本講義では、ソーシャルワークの実践方法と根拠となる理論について身につけることを目的とする。</p> <p>&lt;概要&gt; 相談援助技術の概念構造と基礎理論について詳説し、ソーシャルワーカーに必要な技術的基盤について講義する。形式として、課題学習、同時双方向授業で授業を展開する。課題学習ではテキストを基にしたレジュメを提示し、内容に沿った調べ学習課題の提出を求める。同時双方向授業では事前に提示した授業資料を基に、スライドを用いて授業を進めていく。また、受講生同士のディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を活用し理解を深める。</p>				
学習上の助言	社会福祉士国家試験科目と重複する部分もあるため、関連づけて復習しておくことが望ましい。				
教科書	新・社会福祉士養成講座 7 第 3 版 相談援助の理論と方法 I /編:社会福祉士養成講座編集委員会/中央法規出版				
参考書	必要に応じてプリントを配布する。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	相談援助技術 (ソーシャルワーク) の意義、構造と機能について理解し、説明できる。			HSU(2)、WP (5)	
②	対人援助技術としての相談援助技術 (ソーシャルワーク) の基礎的な技術を習得できる。			HSU(3)、WP(5)、(6)	
③	人と環境との相互作用について理解し、説明できる。			HSU(2)、(3)、WP (3)	
④	自分と他人との価値観・考え方の違いを理解し、説明できる。			HSU(6)、WP(3)、(4)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	講義契約、講義の概略、講義の進めかた、学びの方法について理解する。	同時双方向型授業	内容の復習を行う。		1
2	ソーシャルワークの価値について学習する。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。		2
3	ソーシャルワークの構造・視点について学習する。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。		2
4	ソーシャルワークの過程と主な役割について学習する。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。		2
5	実践における人と環境の交互作用について学習する。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。		2
6	支援と援助、環境のミクロ・メゾ・マクロについて学習する。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。		2
7	ソーシャルワーカーが遵守する原則、援助構造と援助関係について学習する。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。		2
8	中間まとめ (ソーシャルワークの機能と構造) 併せて、第 1 回~第 7 回のフィードバックを行う。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。		2
9	援助関係を生成することの効用と限界について学習する。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。		2
10	ソーシャルワークの機能・役割、自己覚知について学習する。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。		2
11	援助関係を生成することの効用と限界について学習する。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。		2
12	特徴的な援助関係について学習する。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。		2
13	相談援助の展開過程について学習する。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。		3
14	相談援助の初回、ケース発見について学習する。	同時双方向型授業	教科書を読み、重要な内容について整理を行う。		3
15	相談援助の全体像を学習する。	同時双方向型授業	配付プリント、講義範囲の教科書を復習する。		5

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

試		定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照					
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		80	0	0	0	20	100
総合力指標	知識・技術力	70	0	0	0	0	70
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	5	15
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	5	5
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	学期末に筆記試験（選択式）を実施して評価する。 出題範囲は、講義中に用いた教科書・配付プリントから中心に出題し、理解度を問う。				試験結果を掲示する。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①		講義中に理解を深めるために受講生間のディスカッションやワークを実施する。講義をただ受ける受動的な姿勢でなく、積極的に学ぶ姿勢であるかを評価する。				同時双方向授業中、また最後の講義中にて総評を行う。
	②						
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>Microsoft Teams をつけた同時双方向型授業を行う。                      課題ダウンロードや映像共有を行うため授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を奨励する。                      尚、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。</p> <p>社会福祉士取得希望者は必ず履修すること。                      「授業計画」の事前事後学習に加え、講義中に紹介したコミュニケーションに関連する図書、映画、動画資料などを閲覧し、幅広い視野から相談援助技術の素養をさらに深めることを課題として課す（20 時間）。</p> <p><b>教員の実務経験：</b>社会福祉士取得後 6 年の実務経験。  <b>実践的授業の内容：</b>教科書に記載されている一般的事項を教えつつ、社会福祉士としての教員自身の事例を示し、その実践知と教科書に記載されている理論知を比較しながら学習する。</p>							